



登米市の未来を開く新成人 20歳 再会と門出



会場の登米総合体育館には各町域の新成人がスーツや艶やかな振袖に身を包み、一堂に集いました

「成人の日」前日の1月8日、登米市成人式が登米総合体育館で開催されました。
今年の成人式は、昨年より133人少ない892人(男460人、女432人)が対象。このうち、式典には晴れ着やスーツに身を包んだ758人の新成人が出席しました。
開式前、旧友との再会を喜ぶ声が響く一方、式典では大人としての自覚を真剣な表情で受け止めていました。



けん 榊原 健さん (東和町)

本日、ご出席くださった皆さま、本当にありがとうございます。

これまで過ごした20年間は、長いようで短いものでした。わたしをここまで育ててくれた両親、いつも温かく見守ってくださった地域の皆さん、学生時代お世話になった先生方など、本当にありがとうございます。

本日「大人の仲間入り」をしたといってもまだまだ未熟ですので、周囲の皆さまに認められ、立派な大人になれるよう日々努力と勉強に努めていきたいと思っています。
わたしは現在、建築塗装業を営んでいる父のもとで仕事をしています。毎日と同じ作業ではなく、現場によって一つ一つ違った作業を行うた

仕事では父が目標

1日も早く一人前の職人になりたい

め分からない時など、その状況ごとの確かな指示を出してくれる父を尊敬しています。一日も早く同業者の方や尊敬する父に認められるような、一人前の職人になれるよう勉強していきたいと思っています。また、わたしの家は兼業農家でもあり、昨年からは機械を導入し、依頼された水田への作付けを行っています。
最近では、農業を担う若者が減ってきていますが、わたしは今後も農業に従事し、農業の大切さを多くの人に伝えていきたいと思っています。最後になりますが、この年を一つの節目とし、日々「挑戦・努力・勉強・感謝」を目標としていきたいと思っていますので、今後も変わらぬご指導のほどをお願いいたします。

— 20歳になって思う 「はたちの主張」 新成人からのメッセージ —



しゅうか 阿部 周佳さん (東和町)

わたしにとって、この20年間はすごくあつという間でした。特にこの一年間は、忘れることのできない一年になりました。
わたしは気仙沼にある専門学校に通っています。3月11日、病院での実習中に東日本大震災が起きました。
津波に対する知識がまったくないわたしは、この時はまだ大きな地震で「びっくりした」というような軽い気持ちでいましたが、停電・断水が発生し、誰も連絡が取れないまま一週間、気仙沼の避難所で過ごしました。
避難はほんの一週間でしたが、荷物を運んでいるときに知らないおじさんが「重いだろ、手伝うよ」と言って車に乗せてくれたこと、「寒いね」

つらく苦しい時こそ 人を思い優しくできる社会人に

と話していたら高校生が自分の着ていたベンチコートをお貸してくれたことなど、こんな時でも、人のことを思いやれる温かい人がたくさんいるんだと、身をもって実感することができました。
わたしも、誰かが困っている時にこそ優しくできる、そんな人になりたいと思います。わたしたちは「大人初心者」です。これから社会に出て学ぶことがたくさんあると思いますが、先のことには誰にもわかりません。なのでわたしは今しかできないことを全力で楽しみたいと思っています。
20年間、わたしのことを支えてくれた両親、先生、友達そして大事な人、すべての人に感謝し、これからも年を重ねていきたいと思っています。